

平成27年1級土木施工管理 実地試験(学科記述問題)

※問題2～問題11までは選択問題（1）、（2）です。

問題2～問題6までの選択問題（1）の5問題のうちから3問題を選択し解答してください。

なお、選択した問題は、解答用紙の選択欄に印を必ず記入してください。

選択問題（1）

【問題2】 土工に関する次の〔設問1〕、〔設問2〕に答えなさい。

軟弱地盤対策工法に関する次の文章の（ ）のイ～ホに当てはまる適切な語句を解答欄に記入しなさい。

(1)盛土載荷重工法は、構造物の建設前に軟弱地盤に荷重をあらかじめ載荷させておくことにより、粘土層の圧密を進行させ、(イ) の低減や地盤の強度増加をはかる工法である。

(2)地下水位低下工法は、地下水位を低下させることにより、地盤がそれまで受けていた(ロ)に相当する荷重を下層の軟弱層に載荷して(ハ) を促進し強度増加をはかる工法である。

(3)表層混合処理工法は、軟弱地盤の表層部分の土とセメント系や石灰系などの添加材をかくはん混合することにより、地盤の(ニ)を増加し、安定性増大、変形抑制及び施工機械の(ホ)の確保をはかる工法である。

答え---

- (イ) 残留沈下量
- (ロ) 浮力
- (ハ) 圧密沈下
- (ニ) せん断強度
- (ホ) トラフィカビリティー

【問題3】 コンクリートの打継ぎに関する次の文章の（ ）のイ～ホに当てはまる適切な語句を解答欄に記入しなさい。

(1)水平打継目でコンクリートを打ち継ぐ場合には、既に打ち込まれたコンクリートの表面の、(イ)品質の悪いコンクリート、緩んだ骨材粒などを完全に除去し、コンクリート表面を粗にした後に、十分に(ロ)させなければならぬ。

(2)鉛直打継目でコンクリートを打ち継ぐ場合には、既に打ち込まれ硬化したコンクリートの打継面は、ワイヤブラシで表面を削るか、チップングなどにより粗にして十分(ロ)させた後に、新しくコンクリートを打ち継がなければならない。

(3)既設コンクリートに新たなコンクリートを打ち継ぐ場合には、既設コンクリート内部鋼材の腐食膨張や凍害、アルカリシリカ反応によるひび割れにより欠損部や中性化、(ハ)などの劣化因子を含む既設コンクリートの撤去した場合のコンクリートの修復をする。

(4)断面修復の施工フローは、発錆している鋼材の裏側までコンクリートをはつり取り、鋼材の(ニ)処理を行い、既設コンクリートと新たなコンクリートの打継ぎの面にプライマーの塗布を行った後に、(ホ)セメントモルタルなどのセメント系材料を充てんする。

答え---

- (イ) レイタンス
- (ロ) 吸水
- (ハ) 塩害
- (ニ) 防錆
- (ホ) ポリマー

この過去問は受講者専門のページです。
お申し込みされますと全ての過去問がご覧頂けます。
お早目のお申し込みお待ちしております。

受講お申込みはこちらから



<https://www.sekou-net.jp/entry/>